

シラコバト 英: Eurasian Collared Dove 学: *Streptopelia decaocto*

1. 分類と形態

分類: ハト目ハト科

全長: 約325mm 翼長: ♂173-180mm ♀159-171mm
尾長: 118-146mm 嘴峰長: 15-17mm ふしよ長: 21-25mm
体重: 202-225g 全長は高野(1981), 他は清棲(1978)による。

形態: キジバトに比べてやや小さく, スマートな体型で尾が長く見える。遠目では体全体がかなり白っぽい印象を受ける。



写真: シラコバト。

羽色: 雌雄同色, 全身紫色を帯びた淡い灰褐色で, 後頸に黒い横縞がある。初列風切は黒い。尾羽基部は黒く先端が白い。背面は褐色味が強い。嘴は黒く足と虹彩は赤い。

鳴き声: 「クッ, クー, ク」と2拍目が強い3拍子で鳴く。ディスプレイ飛行時などに「ウーッ」という声を出すこともある。

2. 分布と生息環境

分布:

埼玉県東部を中心に極めて局所的に分布する。世界では, 旧北区, 東洋区, エチオピア区, ユーラシア大陸南部, インド, アフリカ大陸中部に留鳥として分布する。もともとは東洋区にいたものを人間が小アジアやバルカン地方に持ち込みヨーロッパ各地に広がった(中村 1995)。現在では, ヨーロッパ全体から北米にまで広がっている。

小杉(1980)は, 基本亜種の *S. d. decaocto* は大変な移動力があることを指摘し, 移動力の極めて小さい日本のシラコバトを *S. d. stoliczkae* としているが, 日本鳥類目録改訂第7版(日本鳥学会 2012)では *S. d. decaocto* とされ, 関東北部の集団は移入種とされた。それ以外に飛来しているものは自然分布の迷鳥とされたが, 移入種の可能性もあるとされている。黒田(1980)も, *decaocto* 以外に *stoliczkae*, *xanthocyclus* の2亜種を認めている。Avibase(Bird Studies CanadaとBirdLife Internationalによる鳥類のデータベース)並びにITIS(スミソニアン博物館からなる統合分類学情報システム)によれば, *S. d. decaocto* と *S. d. xanthocyclus* の2亜種があげられており, 後者はビルマから中国雲南省ならびに中国東部に分布するとしている。

生息環境:

本来の分布地は湿潤な日本とは異なり, 乾燥した半砂漠的な疎林のある農耕地である(中村 1995)。日本のシラコバトは留鳥として, 人家近くの垣根, 庭木, 防風林等に営巣し「耕作随伴者」(埼玉県環境部自然保護課 1974)とされていたが, 近年の観察例では畜舎や工業団地付近でよく見られている。特に冬期は畜舎への依存傾向が強く, 夏期にくらべて観察個体数が増える(図1)。畜舎で採餌して, その周辺の植え込みや, 屋敷林, 竹林などに入り休息

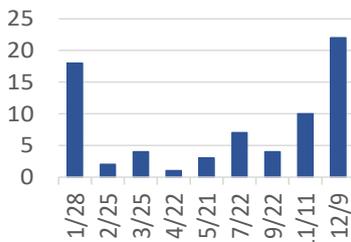


図1. 久喜市の畜舎におけるシラコバト確認数 2015年。

するが, 雑木林の奥深く入り込むことはない。周囲に畜舎がないところでの記録は少なく, 畜舎に依存せずに自立している個体は少ないと思われる。また, 時々大陸から九州に飛来することもあるようで, Web上でもシラコバトの記録が散見される。

3. 生活史

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月

非繁殖期 繁殖期

繁殖システム:

一夫一妻制, 雌雄交代で抱卵し, 夜はもっぱらメスが抱卵する(中村 1995)。

巣:

キジバトなどと同様に木の枝などに小枝を組み合わせただけの粗雑な巣を作る。巣の場所は地上2~4mが多く, あまり高い所ではない(埼玉県教育委員会 1982)。大きさは外径20~30cmの浅い皿状で, 巣材にはハンガーのような針金やビニル紐などを用いることもある。また, 営巣する場所も樹木だけでなく, 工業団地の建造物や軽量鉄骨上に作ることもある。行田市の石材店では, 2階の居間から手の届く距離にある作業場上の梁に営巣した(図2)。幅も狭く不安定にも見えたが, 2012年~2014年の間で11回の子育てを行った。ここでも, 巣材に針金などが見られた。なお巣作りは1羽の時と2羽の時があったとのことである。



図2. シラコバトの巣。上: 巣の位置(矢印)。下: 巣にいる幼鳥。

卵:

通常2卵, 長径27.8~32.2mm×短径21.8~25mm。色は純白で斑紋を欠く(清棲 1978)。

抱卵, 育雛期間:

抱卵期間は14~18日, 育雛期間は15~19日(中村(1995))。給餌は他のハト類と同様にピジョンミルクを分泌して与えるため, 雛が親の口内にクチバシを入れている姿が観察される。

繁殖期間:

3月~10月におよび, ときには冬に繁殖することもある(中村 1995)とされる。

4. 食性と採食行動

毎日ほぼきまった時間に採食地に出て採餌をおこなう(埼玉県環境部自然保護課 1974)。餌は植物質が中心で畜舎では穀類, 野外では野草, 野菜類, 種子等とされている(埼玉県 1982)。畜舎以外では, 耕作地, 草刈り後の河川敷や田んぼの畔, 河川や耕作地沿いの道路などで, 歩き回っていることもある。また人家近くの給餌に集まることもある。

5. 興味深い生態や行動, 保護上の課題

● 高い繁殖力

行田市内の石材店では, 作業場の軽量鉄骨に2012年~2014年にかけて連続して営巣した。2012年は3回繁殖したが, 11月に巣立った2羽は死亡してしまった。翌年, 3月~11月にかけて, 6回営巣し11羽のヒナが巣立った。抱卵から巣立ちまでの平均日数は32.5日であった。

大宮公園小動物園では2011年にケージに放鳥した25羽が, 2016年に130羽ほどになっている。また, 狭山市智光山公園でも2001年の2羽が13年間で38羽になった。県内の動物園にいるものはすべて1970年に捕獲された4羽から増えたものと考えられ, 遺伝的多様性が少ないことによる悪影響が懸念されている。繁殖力は旺盛であるといえ, 上記動物園ではケージ内で収容限界近くまで増加している。

● 絶滅危惧にある現状

江戸時代に狩猟鳥として日本に移入され, 御鷹場を中心に保護されてきたが, 明治以降の乱獲や, 戦後の混乱期にかなり数を減らし, 越谷の宮内庁鴨場付近で細々と生き延びていた。その後, 狩猟対象から外され, 1956年に国の天然記念物, 1965年に埼玉県民の鳥, 1988年に越谷市の鳥にもなり徐々に数を増やしてきた(埼玉県教育委員会 1982)。この頃, 養鶏場の郊外への進出に付随してシラコバトもその分布を広げ最盛期を迎えていたと思われる。藤波(2006)は越谷で1979年~1980年の調査を元に, シラコバトの個体数と養鶏場の数に強い相関があることを明らかにした。また, 同時期の個体数は約1万羽と推定されている(埼玉県教育委員会 1982)。橋口ら(2008)による調査でも千葉, 群馬, 茨城, 栃木を含め営農中の畜産農家の64.4%でシラコバトが確認されていた。

このように2000年頃までは県東部を中心に近県まで分布域を広げていたが, その後, 一転して激減した。中村ら(2005)による深作川遊水地での調査とそれ以降の調査結果(私信)では, 出現率が2000年に64.2%だったものが2010年以降0となり10年間で急速に減少した(図3)。その原因として, 県内の養鶏場数が1960年の約20万戸から2011年の794戸に激減したこと(埼玉県 2014)に加えて鳥インフルエンザ防除対策により, 餌を依存していた鶏舎への出入りが困難になったこと, 増加傾向にあるオオタカなどの猛禽類に捕食されている可能性があることと推測されているが, 詳細は不明である。日本野鳥の会関東ブロックによる2008年度のシラコバトの個体数調査の結果では, 確認個体数が繁殖期46羽, 越冬期68羽であった。「県民の鳥」の急減を受けて, 埼玉県による実態調査が2012年から始まり, 筆者を含め11人が, 日本野鳥の会の調査を踏まえた現地調査をおこなった。2012年度の調査では, 確認個体数として, 繁殖期24羽, 越冬期76羽, 2013年度以降は越冬期

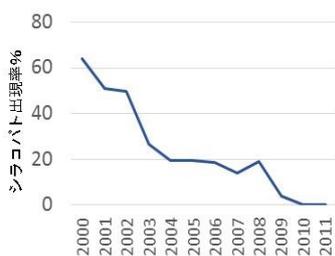


図3. 深作遊水地におけるシラコバト出現率推移。

の調査で, 2013年度107羽, 2014年度と2015年度は103羽であった(図4)。

最近の調査では, 熊谷, 行田, 加須, 鴻巣, 幸手, 久喜, 杉戸, 春日部, 三郷, 岩槻, 富士見, 川島などで確認されているが, その多くは開放的な畜舎との関連が認められている。



図4. 埼玉県東部のシラコバトの分布。数字はシラコバト確認数(埼玉県HP平成27年度シラコバト生息状況調査結果を参考に作図)。

● 保護上の問題

天敵として, 同所的に営巣するオナガによる卵の食害が指摘されていたが(埼玉県環境部自然保護課 1974), 近年ではハシブトガラスや猛禽類の影響が考えられている。また, 養鶏場に依存せずに採食する個体がそれほど多くないことも大きな問題点であろう。

6. 引用・参考文献

- 清棲幸保. 1978. 日本鳥類大図鑑増補改訂. 講談社, 東京.
 黒田長禮. 1980. 新版鳥類原色大図説. 講談社, 東京.
 小杉昭光. 1980. 越谷のシラコバト. 動物と自然 10(4): 27-31.
 小荷田行男他. 2011. 2008年度 関東地方におけるシラコバトの個体数と個体数密度. Strix 27: 135-140.
 埼玉県. 2014. 埼玉県シラコバト保護計画平成26年3月.
 埼玉県ホームページ. <https://www.pref.saitama.lg.jp/a0508/sub-tayouseihozen/shirakobato-top.html> (2016/11/07閲覧).
 埼玉県環境部自然保護課. 1974. 県民の鳥シラコバト. 埼玉県, さいたま.
 埼玉県教育委員会. 1982. 天然記念物緊急調査報告 越ヶ谷のシラコバト. 埼玉県, さいたま.
 高野伸二. 1981. 日本産鳥類図鑑. 東海大学出版会, 東京.
 中村清・小荷田行男. 2005. 埼玉県南部深作川遊水池の鳥類相 1994年~2004年. さいたま市博物館研究紀要第4集, さいたま.
 中村登流. 1995. 原色日本野性生態図鑑. 保育社, 東京.
 日本鳥学会. 2012. 日本鳥類目録改訂第7版. 日本鳥学会. 東京.
 橋口長和他. 2008. 2000~2001年におけるシラコバトの分布と生息地. Strix 26: 105-114.
 藤波不二雄. 2006. 県の鳥「シラコバト」に明日はあるか(1)『郷土はとがや』第58号. 鳩ヶ谷市, さいたま。

執筆者

小峯 昇

NPO法人自然観察指導員埼玉代表理事
 公益財団法人さいたま緑のトラスト協会理事

トラスト保全地での雑木林保全作業, NPO法人として埼玉県から受諾している県民参加型生きものモニタリング調査, 埼玉県絶滅危惧種動物調査団での鳥類調査等を行っている。定年後はもう少し暇になると思っていたのに・・・という妻の呟きが聞こえてくる今日この頃です。

